

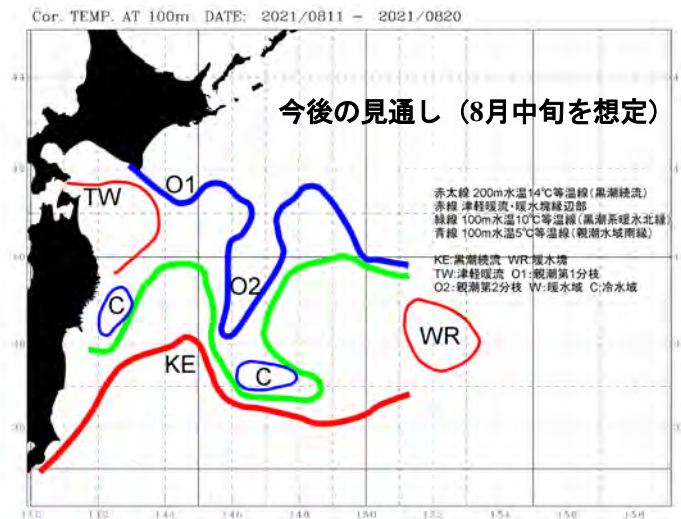


2021年度 第3回 東北海区海況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2021年8月～2021年9月上旬)のポイント

- ・ 近海の黒潮続流の北限位置は極めて北偏で推移する。
- ・ 親潮第1分枝の張り出しはやや北偏～かなり北偏で推移する。
- ・ 根室半島南東沖の暖水塊は消滅する。
- ・ 期間の後半に三陸沖（東経145°付近）に新たに暖水塊が発生する。



問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：企画調整部門（横浜）森永

海洋環境部（塩釜）栗田、笥

電話：022-365-1191、ファックス：022-367-1250

当資料のホームページ掲載先URL

<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease>

2021年度 第3回 東北海区海況予報

《今後の見通し（2021年8月～9月上旬）》

- (1) 近海の黒潮続流の北限は極めて北偏（北緯36° 40' 以北）で推移する。
- (2) 近海の黒潮系暖水の北限はやや北偏～極めて北偏（北緯39° 30' 以北）で推移する。
- (3) 根室半島の南東沖、鮫角沖、三陸はるか沖の暖水塊は消滅する。三陸はるか沖と三陸沖に新たに暖水塊が発生する。
- (4) 親潮第1分枝の南限はやや北偏～かなり北偏（北緯40° 20' ～42° 10'）で推移する。三陸近海に冷水域が残る。
- (5) 親潮第2分枝の南限はかなり南偏～極めて南偏（北緯39° 10' 以南）ののちにやや北偏～かなり北偏（北緯40° 20' ～41° 30'）で推移する。
- (6) 津軽暖流の下北半島東方への張り出しはかなり強勢～極めて強勢（東経143° 30' 以東）で推移する。

《海況の経過（2021年1月～6月）の特徴》

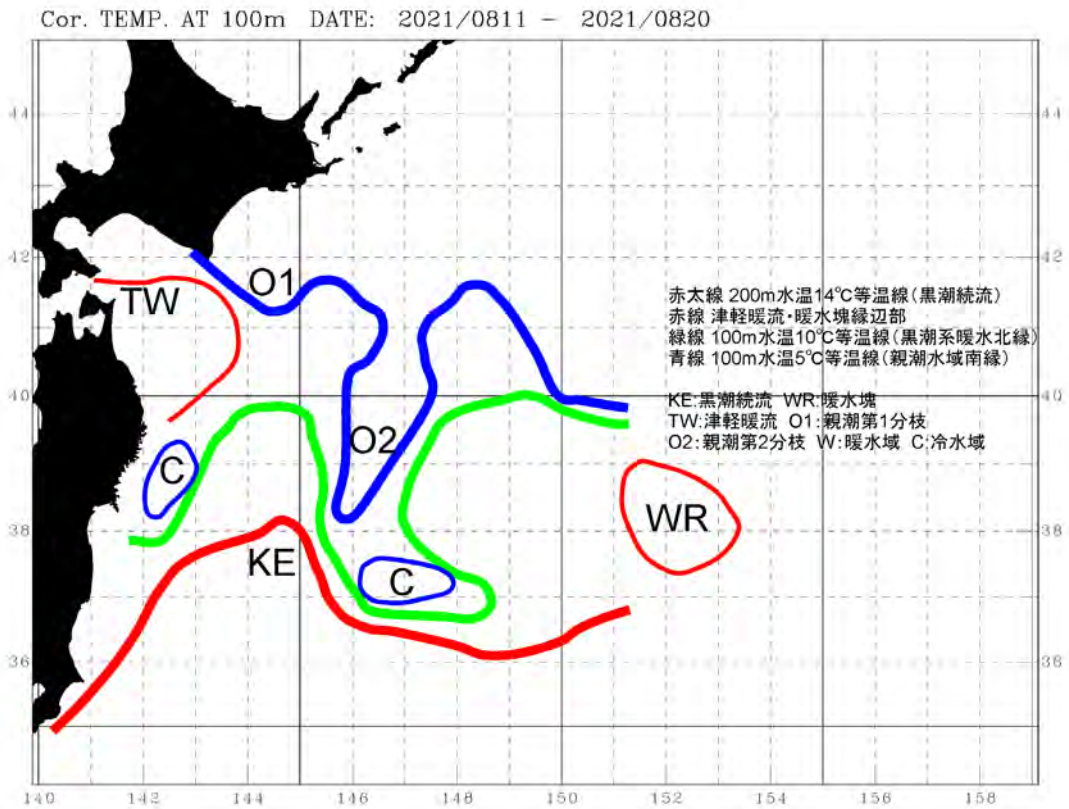
- (1) 近海の黒潮続流の北限はかなり北偏～極めて北偏（北緯37° 20' ～38° 20'）で推移した。
- (2) 近海の黒潮系暖水の北限は平年並み～極めて北偏（北緯38° 10' ～40° 30'）で推移した。
- (3) 2019年5月に金華山はるか沖に形成された暖水塊が6月まで釧路沖に停滞した。2020年11月に三陸はるか沖に形成された暖水塊は停滞した。2021年2月に三陸沖に形成された暖水塊も停滞した。
- (4) 親潮第1分枝の南限は平年並み～かなり北偏（北緯38° 50' ～41° 50'）で推移した。
- (5) 親潮第2分枝の南限は平年並み～かなり北偏（北緯39° 30' ～40° 50'）で推移した。
- (6) 津軽暖流の下北半島東方への張り出しは平年並み～極めて強勢（東経142° 20' ～143° 30'）で推移した。

《現況（2021年7月上旬）の特徴》

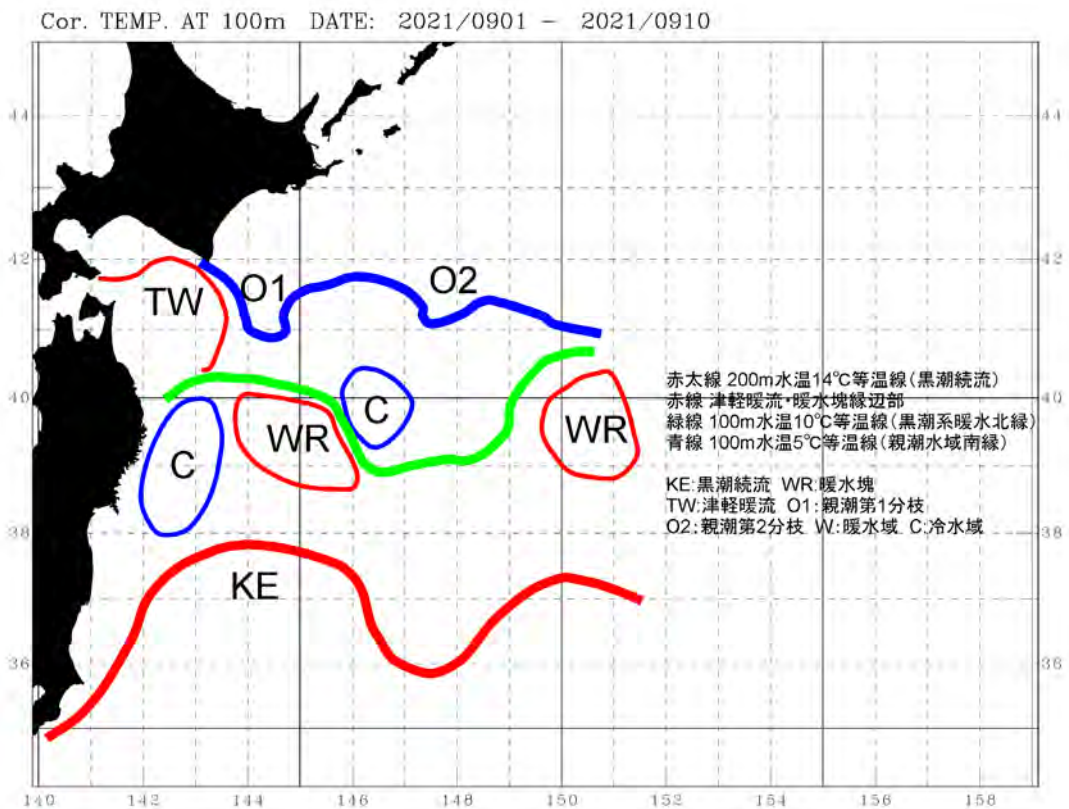
- (1) 近海の黒潮続流の北限は極めて北偏（北緯37° 40'）である。
- (2) 近海の黒潮系暖水の北限は平年並み（北緯38°）である。
- (3) 暖水塊が根室半島の南東沖240km、鮫角沖170kmと三陸はるか沖580kmにある。
- (4) 親潮第1分枝の南限は平年並み（北緯39° 50'）である。三陸近海に冷水域がある。
- (5) 親潮第2分枝の南限はやや北偏（北緯40° 10'）である。
- (6) 津軽暖流の下北半島東方への張り出しはかなり強勢（東経143° 30'）である。

（注）この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2012年5月より運用を開始したFRA-ROMSシステムを用いた。FRA-ROMSは、我が国周辺太平洋域の海況経過を再解析し、2ヶ月先までの海況を予測する海況予測システムである。

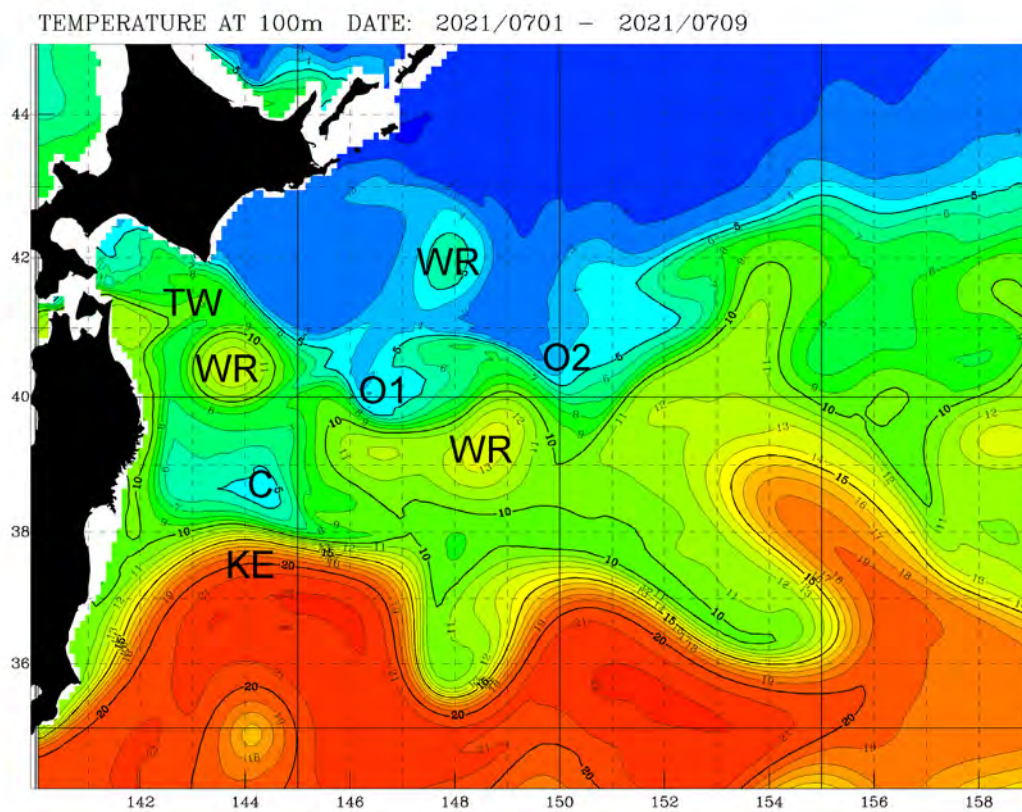
8月中旬予測水温分布図



9月上旬予測水温分布図



7月上旬の現況水温分布図（100m深）



図中の記号はそれぞれO1が親潮第1分枝、O2が親潮第2分枝、KEが黒潮続流、TWが津軽暖流、WRが暖水塊、Cが冷水域を表している。

参 画 機 関

<p>地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所</p> <p>岩手県水産技術センター</p> <p>宮城県水産技術総合センター</p> <p>福島県水産海洋研究センター</p> <p>茨城県水産試験場</p>	<p>(取りまとめ機関)</p> <p>国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所</p>
--	--